



年度末を迎え、1年間のまとめの時期になりました。4月当初の手探りだった時期から、少しずつ子どもとの距離を縮め、「かかわり方がわかってきた」・・・という話を先生方から聞きます。こんな言い方をすると伝わりやすい、ここまでがんばらせても大丈夫、といった、関係を築いてきた先生ならではの、絶妙な言葉かけ、支援の強弱により、子どもの安心やがんばりを上手に引き出す場面を、何度も目にしてきました。「さすが」の一言です。

お子さんにとってよかった支援、かかわりは、ぜひ、次の年度に引き継いでください。新しい担任がすぐに同じようにはできませんが、きっとお子さんにとっても、先生にとっても、新しい関係作りでの大きな支えになります。

見直そう!! 「叱る・怒る」では困った行動はなくなる その2

前回、「叱る・怒る」により、困った行動を強めてしまう、困った行動は、その対になる「適切な行動を育てることで減らしていく・・・という話をしました。今回はより具体的な対応のポイントについて話したいと思います。

ポイント ① 困った行動を起こさないようにすることに重点をおく

困った行動が起きてからの対応では、どうしても叱る・怒るという対応になりがちです。指摘を受けることに強い拒否を感じてしまうお子さんも多く、叱られて学ぶことは非常に難しいです。子どもの困った行動には必ず理由があります。その理由となるものを取り除き、困った行動が起こりにくい環境や状態をつくりましょう。

<例えは・・・>

- ・友達とトラブルを起こしやすい場合は、場の設定を工夫し、相性の悪い友達と物理的な距離をおく。適切なふるまいをあらかじめ教えて約束しておく。

「貸して」→「どうぞ」「ちょっと待って」のやりとり

順番の待ち方

ふわふわ言葉をクラスの目標にする。

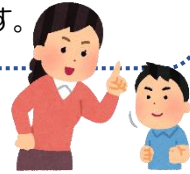
- ・授業中遊んでしまうお子さんの場合、内容理解の問題があることが多い。できる支援や学習環境の見直しを検討する。本児が参加できる方法を考える。
- ・教室にいられない場合、苦手な感覚等がないか考え、対策をとる。

音が苦手であればイヤーマフの検討

人が多い環境が苦手な場合は、安心できるスペースを確保し、適宜休息をとる。

ポイント② 日頃からできているところを捉えて、伝えていく

子どもが困った行動を起こすとき、先生方の注意を引きたい思いが背景にある場合もあります。日頃から適切な行動をしているときこそ、「今の〇〇よいですね」と伝えてほめてあげてください。子どもにとって目指すべきことも明確になります。



<例えば…>

- つい友達に強めの言い方をしてしまう子に対して・・・
やさしい言葉、ふわふわ言葉が使えたときこそ、「今の言い方よかったね」と伝える。
- その他にも、「ちゃんと並べているね」「よい姿勢でいいね」「話を聞けていますね」と当たり前に行っていることを拾って伝えてあげてください。

ポイント③ 困った行動が起きたら→「〇〇しよう」と適切な行動を伝える。

「こら」「いけません」といった強めの反応は、却って行動を強めてしまいます。またなぜ怒られているのかもわかりにくく、結果「この子はいつも同じことを繰り返します…」ということになりかねません。

<例えば…>

- 「ちゃんと並びなさい」だと伝わりにくいので、「〇〇君の後ろで待とう」と、どうするべきか具体的に伝える。
- 先生が手本を示す、立つ位置がわかる足形や線を描く等、見てわかる支援があると、子どもにとってやるのがわかりやすいです。「足形のところに立とう」
- 教科書を開かない場合、教科書がどれだかわからない、なんて言われたのか覚えられない等の困り感を抱えている場合があります。
黒板にページを書いておいたり、そっと教えてあげたりしてください。

ここで
まってね!



サポート事業では、お子さんの行動の背景、実態、クラスの状況に応じて、それぞれのポイントにそって、先生方がどんな支援ができそうか、話し合います。悩んだときには、いつでもご相談ください。

○問い合わせ・連絡先

群馬県立伊勢崎特別支援学校(地域支援部)

TEL:0270 - 25 - 4461

FAX:0270 - 21 - 8653

E-mail:isetoKu-sodan@edu-g.gsn.ed.jp

担当:専門アドバイザー 福田 さとみ